

肝炎医療コーディネーターの新聞報道に関する研究

研究分担者 浅井 文和 国立国際医療研究センター 肝炎情報センター 客員研究員

研究要旨

【背景】肝炎検査の受検から受診、受療に至るステップを繋げるため、全国で肝炎医療コーディネーターの養成と活動が推進されている。しかし、肝炎医療コーディネーターは歴史が浅く、活動の意義と役割について一般住民への周知が必要である。広く読まれている一般の新聞で肝炎医療コーディネーターについてどのような内容の記事が書かれているかを調査した。

【方法】肝炎医療コーディネーターに関する新聞記事を全国紙 4 紙の記事データベースを使って抽出し、記述内容について計量テキスト分析をおこなった。

【結果】抽出できた新聞記事は 2011 年 2 月から 2019 年 2 月までに掲載された 18 件だった。内容は(1)肝炎ウイルス検査(2)治療医療機関(3)コーディネーター養成(4)早期発見などのクラスターから成り、コーディネーターの意義と役割をほぼ網羅していた。

【結語】肝炎医療コーディネーターに関する新聞記事はおおむね必要事項を伝える内容であった。ただし掲載されている記事の件数は 2017 年以降にはそれほど多くなく、継続的な広報活動が求められる。

A . 研究目的

検査受検から受診、受療に至るステップを前に進めるには、一般住民がウイルス性肝炎に関する適切に情報を入手・理解することが求められる。そのために、肝炎医療コーディネーターの育成、配置と日常的な活動がおこなわれている。しかし、肝炎医療コーディネーターの活動は歴史が浅く、その養成と活動の意義と役割について一般住民への周知が必要である。全国の新聞で肝炎医療コーディネーターについてどのような内容の記事が書かれているかを調査した。

B . 研究方法

発行部数が多い国内の全国紙 4 紙（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞）の記事データベース（各都道府県の地域版記事を含む）を使って記事数と内容の分析をした。肝炎医療コーディネーターの名称は地域ごとの違いがあり、また臓器移植コーディネーターに関する記事を除外するため、記事検索式は、「(肝炎 OR 肝臓 OR 肝疾患) AND コーディネーター NO 移植」とした。検索対象期間は 2011 年 1 月 1 日から 2019 年 2 月 28 日とした。抽出した記事を目視で読んで肝炎医療コーディネーターを扱っていない記事を除外した。

計量テキスト分析をするためのソフトウェアとして KH Coder ver.3（参考文献：樋口耕一 2014 『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を

指して『ナカニシヤ出版)を用いた。記事テキストをKH Coderに読み込み、形態素分析システム「茶筌」で単語に切り分け、記事内容の特徴を計量的に分析した。品詞による語の選択では、名詞、サ変名詞、形容動詞を分析に用いた。

(倫理面への配慮)

本研究は人を対象とせず、個人情報を含まないテキスト分析であるため、倫理審査の対象にならなかった。

C. 研究結果

抽出した新聞記事は4紙合計で18件であった。年別では2011年4件、12年~15年各2件、16年4件、17年1件、19年1件だった。

記事をKH Coderに読み込んで、全記事中で使われた語のうち出現回数が多い頻出語は「肝炎」「治療」「検査」などであった(表1)。

(表1) 出現回数が多かった抽出語

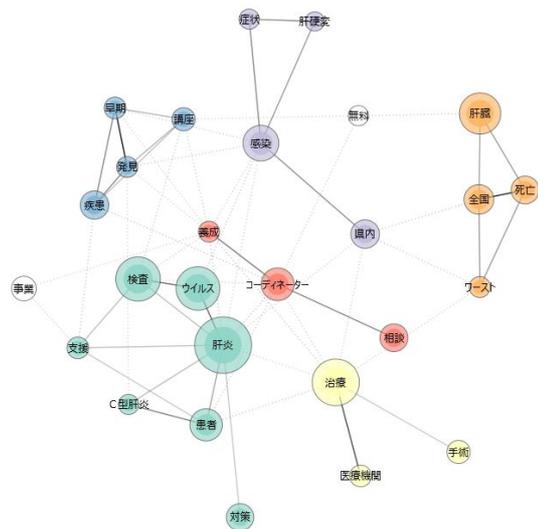
順位	抽出語	回数
1	肝炎	96
2	治療	65
3	検査	58
4	ウイルス	56
5	肝臓	50
6	感染	37
7	コーディネーター	31
8	患者	30
9	全国	25
10	県内	23
11	疾患	23
12	死亡	22
13	相談	22
14	対策	21

頻出語がどのような文脈で使われているかを調べるため、近くでよく使われる語と語とを線で結んだ共起ネットワークを作図した(図1)。共起の強さを測る方法としてはコサイン係数を使用した。

共起ネットワークを見ると、

- (1)肝炎ウイルス検査
 - (2)コーディネーター養成と相談
 - (3)治療、手術と医療機関
 - (4)早期発見
 - (5)感染と肝硬変、症状
 - (6)肝臓がんと死亡率
- など数個のクラスターに記事内容が分類できることがわかる。

(図1) 抽出語の共起ネットワーク



また、関連が強い語ほど近くに配置されるようにした自己組織化マップ(Self-Organizing Map)という手法(多変量解析の一種)を用いて作図した(図2)。

このマップを見ると、

- (1)C型肝炎と肝炎ウイルス検査
- (2)コーディネーター養成と相談、早期発見
- (3)治療、手術と医療機関
- (4)肝炎の対策事業

(5)感染と肝硬変、症状

(6)全国の死亡率

というクラスターで記事全体を説明できる
ことがわかる。

(図2) 抽出語の自己組織化マップ



F . 研究発表

1 . 論文発表

なし

2 . 学会発表

なし

G . 知的所有権の取得状況

1 . 特許取得

なし

2 . 実用新案登録

なし

3 . その他

なし

D . 考察

肝炎医療コーディネーターに関する新聞記事は全体的に見ると、C型肝炎と肝炎ウイルス検査、早期発見、治療、コーディネーターの養成、患者相談などの要素が含まれていて、コーディネーターの意義と役割をほぼ網羅する内容になっていた。

ただ、記事の掲載件数は2016年までは継続的に取り上げられていたものの、2017年以降ではあまり多くなく、コンスタントに理解を求める必要があると考えられる。

E . 結論

肝炎医療コーディネーターに関する新聞記事はおおむね必要な事項を伝える内容であった。掲載されている記事件数はこの2年間ほどはそれほど多くなく、継続的な広報活動が求められる。